

琉球のおもてなし

〜識名園で壺屋焼を用いたお茶会〜

仕事の窓

経済産業部
BUSINESS REPORT 1

沖縄の伝統的工芸品の 美しさを再認識。



球のおもてなし」と題してお茶会を開催しました。

沖

縄県では、伝統的工芸品として十三品目が指定されています。今回、特に那覇市の伝統的工芸品を取り上げて、生活の中に提案するイベントを開催しました。

那覇市の伝統的工芸品は、琉球王朝のお膝元として発達したものが多く、琉球びんがた、首里織、琉球漆器、壺屋焼があります。

「新春の宴」、「お茶の時間」というテーマで、食卓に壺屋焼、琉球漆器の器を使い、さりげなく首里織、琉球びんがたを飾り、日常生活に潤いを取り入れる提案を行い、古くから受け継がれてきた伝統工芸品のすばらしさを再認識してもらうものです。

平成十八年一月十九日(木)に、那覇市にある識名園において、壺屋陶器事業協同組合と伝統的工芸品月間国民会議沖縄地区協議会(事務局/経済産業部地域経済課)の「琉



識名園御殿(うどうん)

お茶会には、観光客を始め、茶道の愛好家、地元客、小学生など二百余人が訪れ、琉球王朝時代に冊封使の接待にも使われた歴史ある識

名園の庭園を眺めながら、伝統工芸品に触れ合いました。
識名園を訪れた参加者は、那覇市の観光ボランティアである案内親方(うえーかた)から識名園の由来を聞きながら、御殿(うどうん)とよばれる主屋に案内され、壺屋焼によるお茶を楽しんだ後、別室の生活提案コーナー、壺屋焼展示、お茶席の展示や書の席を思い思いに回りました。

茶席は、第一席から第五席の五行行われ、第一席には、壺屋小学校の六年生二九名が参加しました。壺屋小学校は、壺屋焼の産地である壺屋地区に隣接し、子供達は日頃から壺屋焼に接する機会も多いのですが、抹茶の茶席は始めてという子が多く、茶道聖流会運天先生に説明を受けながら、初めてのお茶に挑戦し、飲み終わった後もお茶会のために陶工が作成した茶器をじっくり見て楽しんでいました。終了後には、「思ったほど苦くなかった。」「たくさんさんの伝統的工芸品に触れ合えて楽しかった。」とい

う感想が聞かれました。

また、「沖縄の伝統的工芸品の美しさを再認識した。」「展示を家で真似してみようと思った」と、一般参加者からも好評を博しました。今回のお茶会で、参加者は、満開となった梅と桜の花びらと香りが漂う中、琉球王朝時代に招かれたような世界を満喫していただけたと思います。

今後も、伝統的工芸品に興味をもたせ、伝統工芸品産業の振興に寄与する事業に取り組んでいきたいと考えています。

■お茶会で用いた伝統的工芸品■

■壺屋焼

上焼と荒焼に大別され、上焼は、釉薬をかけ焼かれたもので主に皿等、日常生活用品が多く、壺屋焼の主流を占めている。荒焼は、釉薬をかけないで焼かれたもので主にカメ類など大型の容器を中心に作られている。

■首里織

琉球王朝時代に、王侯・貴族の着物として首里で発達した織物。首里絣、首里花織、首里道巾織、首里花倉織、首里ミンサー等様々な技法がある。

■琉球びんがた

中国の型紙の技法、京友禅の手法も取り入れた沖縄で唯一の染物。

■琉球漆器

琉球漆器は主に朱色漆や黒漆を用いた花塗で作られ、特に朱の鮮やかな美しさが特徴。「堆錦」や「沈金」、「箔絵」、「螺鈿」等の技法がある。



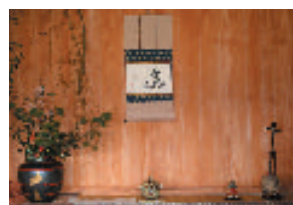
「お茶の時間」のテーブルコーディネート



お茶を楽しむ小学生



首里織・琉球紅型



「新春の宴」のテーブルコーディネート